



会長	紺野 広	青少年奉仕	夏川戸 齊
副会長	橋本 昭一	幹事	松本 剛典
クラブ奉仕		会計	妻神 和憲
会長エレクト	橋本八右衛門	会場監督	佐々木泰宏
職業奉仕	道尻 誠助	直前会長	小林 幹夫
社会奉仕	岡崎 孝文	副幹事	小田山紀暢
国際奉仕	鶴飼 寿栄	会計補佐	小井田和哉

例会日	毎週水曜日 12:30	例会場	八戸グランドホテル
事務所	八戸市番町14		八戸グランドホテル内
	電話 (43) 0608	FAX	(43) 0661
	e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp		
	http://hachinohe-rotary.org/		
会報・広報委員長	峯 正一	同副委員長	上村 奉樹
同委員	妻神 和憲	同委員	野村 一雄

国際ロータリーのテーマ — 2023~24 — 八戸ロータリークラブのテーマ
世界に希望を生み出そう **和而不同 (わじふどう)**

国際ロータリー会長 ゴードン R.マッキナリー

八戸ロータリークラブ会長 紺野 広

7月 は 新 会 員 の た め の 月 間 で す

————— 第3317回例会 2024.6.19 —————

▶ゲスト 八戸市危機管理部次長兼
危機管理課長 館合 裕之様

会 長 要 件 紺野 広 会 長



本日は、先に八戸市と締結致しました災害時の協定を、しっかりしたものにする為に、八戸市危機管理部次長兼危機管理課長、館合裕之様から八戸市の災害時対応の方針と、御自身の実災害時の御経験を御話し戴く予定です。其れから私は、後に、会長年度総括で再登壇致しますが、其の話しを本日の私の会長要件に変えさせて頂いて戴く事とします。

入会式

- ・長沼弘次さん 八戸グランドホテル
- ・丹波正美さん (有)丹波工務店

推薦者からの紹介

道尻誠助さん

長沼弘次さんはサヴァイカ八戸グランドホテルの社長をされております。いつも会場などでお世話になっている方です。温厚な人柄



で場を和ませる能力に秀でた方です。愛社精神と責任感が強く、コロナ禍から続く会社の難局を皆さまのお陰で乗り越えられ、現在黒字への足掛かりを作ることができたと思っております。この実行力はひじょうに大きいものがあると思います。

丹波正美さんは髭を生やしています。ロータリークラブで3人目の髭の男です。ロータリー髭三兄弟のトップは佐々木泰宏さんです。有限会社丹波工務店の代表取締役で、不動産業も営まれています。何事にもコツコツと目標に向かって努力を積み重ねる方です。誠実な人柄で、周りの人からは困ったときの丹波さんと頼られ、慕われています。ロータリークラブの奉仕活動にもひじょうに興味をお持ちの方です。若い時には遠洋漁業で船乗りをしていたそうです。ユーモアもありますが、なかなか相手に伝わらないですが、徐々に良さが分かってくると思いますので、ぜひ皆さんの仲間に入れていただければと思います。

バッチ伝達

新会員挨拶



長沼弘次さん

八戸グランドホテルの長沼と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。このたびは格式と伝統のある八戸ロータリークラブに入会することができて、本当に嬉しく思っております。思い返せば令和元年、元会員の笹本進が亡くなりまして、それから取締の新山が1年ほどおり、4年ほど空白の時間がありましたので、その4年を取り戻すべく頑張っ、皆さんのお力になれるように頑張っしていきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



丹波正美さん

日頃からお世話になっておりますニコニコ薬局の道尻先生から推薦をいただき、このたび歴史と伝統のある八戸ロータリークラブに入会させていただき運びとなりました。正直、知識や経験のないわたしがロータリー活動などできるか迷いましたが、道尻先生の情熱的な熱いお言葉で第一歩を踏み出す勇気となりました。何分未熟でいたらない点もたまたあると思ひますが、努力していきたいと思ひます。何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

幹事報告 松本 剛典 幹事



○来週26日(水)に最終例会が八戸グランドホテルで18:30～あります。まだ出欠の返事をいただいでいない方は早めに事務局までお願ひします。

委員会報告

親睦・会場委員会 増田 敏委員長

○ニコニコボックスの報告

・奥様誕生祝：鴨澤 諭さん
鶴飼寿栄さん いよいよ年度末です。皆さん



1年間御苦勞様でした。

道尻誠助さん

紺野会長さん、松本幹事さん、お顔の筋肉がゆるんでますよ!!

小田山紀暢さん 長沼さん、丹波さんよろしくお願ひします。

橋本八右衛門さん 17日の合同理事会、お疲れ様でした。ありがとうございました。

長沼弘次さん 本日入会となりました。皆様どうぞよろしくお願ひ致します。

山村和芳・熊谷清一 } ニコニコデー
中村稔彦さん

会長・幹事年度総括 紺野 広会長



来週も最終例会が有り、未だ、年度予定行事が完全に終わった訳では有りませんが、本日は、総括と言う事ですので、先ず持っ、皆様へ、御礼を申し上げたいと存じます。1年間本当に御世話に成りました。様々な委員会活動を通じ、クラブを御支え戴きました事に対し、心からの感謝を申し上げます。

私の会長年度のスタート。第1回例会が開催された7月5日、其の日の午前9時20分に、父が、享年94才で亡くなりました。副会長を御引き受け戴いた、橋本昭一さんには、会長代理としての仕事を出来るだけ御願ひしないと御約束して居ったのですが、第1回目の例会から会長年度方針を橋本副会長に御代読戴くと云う事態と成りました。父は、徐々に弱って行っ、居りましたので、多分こういう事態にも成り得るだろうという危惧は有りました。ですので、パソコンを兄の病院に持っ、行って、危篤の父の枕元でクラブの年度方針の発表原稿を書き、其れを事務局にメールで送り、プリントアウトして貰い、橋本副会長に第1回例会で会長年度方針を、御話し戴きました。第1回目の例会から約束を反故にせざるを得なかつた事に恐縮する傍ら、大先

輩の御厚情に対し、改めまして有難く感謝を申し上げる次第です。通夜の席では、父の棺を囲み、兄弟4人で思い出話しをしながら飲み、私も少しほろ酔い加減でしたが、夜半の10時位に廣田先生が弔意を表しに来て下さいました。そして、亡くなった3日後の7月8日に葬儀を執り行いました。私自身、望外の事で有りましたが、村上先生、熊谷先生、高谷さん、道尻さん、松本幹事等クラブ会員の皆様方。そしてロータリアンだけで無く大勢の方々、わざわざ八戸から盛岡の葬儀場に来て下さり、其れを、感激を持って御迎えした事を思い出します。多くの方々から供花を頂戴し、菩提寺も華やかに彩られました。御香典、弔電も多数頂戴し、私が八戸でこうして受け入れられ始めているという事が、亡くなった父に伝わったのでは無いかと、少し親孝行が出来たのではと想わせて戴きました。此れも、八戸ロータリークラブ(RC)に入会させて戴いた御陰で有ります。葬儀の日は、年度最初のクラブの奉仕活動、母子生活支援施設小菊荘の花壇整備の日でも有りましたが、其方も欠席する事と成ってしまいました。例年花を植える子供達の笑顔に私自身も癒されるイベントなのですが、其れも岡崎社会奉仕委員長、小田山副幹事を中心に執り行われ、橋本八右衛門会長エレクト等にも御参加戴き、無事に終わったとの報告を受けた時、ホッと安心したのを思い出します。次の奉仕活動、夏祭りは、8月でした。小菊荘の子共達と、鶴飼さんが運営なさって居られる社会福祉法人ユートピアの会の施設利用の子共達。そして、其の親御さん達と共に、夏祭りを行いました。社会奉仕委員長の岡崎さんが色々手配して下さいました。冷凍車迄御準備戴き、食中毒に最大限の配慮をしながら、バーベキューを行いました。チョコレートファウンテンなども御準備下さり、子供達は大喜びでした。場所を御提供戴いたユートピアの会には退職なさった教職員の方々が多数在籍して居られ、子供達にきちんと対応し、統制を取った上で楽しませて呉れて居りました。2つの施設の御子さん達が集まった会でしたが、

皆に楽しんで戴け、大きな問題も起こらずに無事終了出来た事を嬉しく思いました。一方、真夏の本当に暑い最中でしたが、最初から最後までマスクを外さない、未だ顔を出せ無いと思って居る、顔を出す事を恐れる母親が居た事が少し悲しく、忘れられません。社会奉仕委員長長の岡崎さん、鶴飼さん、御準備、運営に主体的に携わって戴き、誠に有難う御座居ました。又、職場訪問例会も病院の行事と重なって出られませんでした。其の時にも、橋本副会長には、再度会長要件を御代読戴きました。感謝しか御座居ません。本当に有難う御座いました。

今年度、11月には、台湾の基隆RC創立70周年記念式典に行つて参りました。其の前に、我々がホストクラブを務めた第2830地区の10月の地区大会の時に、基隆RCの面々が、八戸に来て下さいましたが、矢張り基隆に行つて思うのは、彼らは我々を家族の様に受け入れて呉れる本当の意味での“姉妹”クラブで有ると云う事です。一人一人が親戚、家族の様な存在なのだと感じさせて呉れる暖かい盛大な歓待を受けて参りました。そして、基隆RCと我々は、同じ様な視点で類似の奉仕活動をして居ります。台湾でのDVで、親元を離れ施設で生活する子供達に対する教育に、熱意をもって経年支援をして居られます。基隆RCとの間には言葉の問題が常に壁として存在して居りますが、中村稔彦さんに、基隆RCとの間に入って貰い、御準備をして戴き、又、現地でも、雇ったアテンダント以上に動いて戴いた御蔭で、彼らの式典での我々の役割も無事にこなせ、親睦を深めながら、順調に日程を消化して、帰国する事が出来ました。彼らにとっては、とても大切な式典で、意気込みも感じられましたので、英語や、台湾語を翻訳ソフトで確認しながら行う、クラブ間の打ち合わせ、遣り取り、確認事項の分量は非常に多く、大変で、神経を使う作業で有ったかと思ひます。本当に有難う御座居ました。

又、今年度、八戸市と八戸RCの間での災害時協力の協定を締結致しました。今日は館合様からも御話しを頂戴致しますが、能登半

島地震が1月1日に起きましたし、我々が経験した東日本大震災、以降の13年間で、震度7以上の地震災害が3回も起きて居ります。そういう事も背景に有り、我々八戸RC会員が、其々の職場で得た教訓、知見を集めて、八戸市を災害に強い町にして行く事に寄与して行こう、という事で、会員皆様からたくさんの災害時対応の卓話を頂戴致しました。年度後半に、予定して居ないプログラムを新たに毎週の様追加させて戴いた他、新会員も多く御入会戴いた事により、渡辺孝プログラム委員長には、新会員卓話を始めとした種々の卓話、プログラムの調整、交渉に本当に多大なる御尽力を賜りました。此の場を御借りし、感謝を申し上げます。

「一年間を終えるに当たって遣り残した事は何ですか？」と皆様に良く聞かれます。村上壽治先生が、2023年4月29日に発令された春の叙勲を、年末のクリスマス例会で御祝いするという事で、「とにかく明るい安村」をやってみました、「音楽が無いのか？」等、色々アドバイス、御指導を戴きましたので、其の辺をブラッシュアップして再度、チャレンジして行きたいと思えます。又、川村幸雄会員が年度の途中で御亡くなりになりました。追悼の会を皆で無くくても、有志だけでも良いので遣り残したと云う事が有ります。其れから、皆でロータリーの活動を語り合う読後会IDMも、ロータリーの友委員長の荒谷さんの転勤なども有り、出来ず仕舞いで心残りです。何れも橋本八右衛門年度で出来る事ですので、橋本会長に御伺いを立てながら、私自身の残した課題として主体的に参加させて戴きたいと思っております。

其れから、年度後半の目標に掲げた2つの内の1つは、クラブ会員数70名超えでした。会員数は今現在で69名に成りました。年度明けて直ぐに2名、入会する事が決まっております。ですので、次年度の初めには70名前後でスタートを切る事が出来そうです。私の次年度の個人的な目標は会員数80名です。自分に課したノルマとして達成して参りたいと思えます。

もう一つは、災害時協定を実効性の有るものにして行く事でした。災害時協定は、災害時に連絡が取り合える様、双方3名ずつの実務担当者の連絡先を交換する、という処迄しか、今は行って居りません。実際の活動内容、活動場所等に関しては、此れから詰めて行きたいと思えます。此れは、逐次ブラッシュアップして行く必要の有るものですので、次年度も携わらせて戴きたいと思えます。

和而不同、一年間このテーマの下、皆様の御意見を伺い、集め、出来るだけ総意を取り纏め、ベクトルの向きを揃える様にと遣って参りました。皆様の御協力が有ったからこそ、一年を、大過無く終える事が出来ました。改めて御礼を申し上げ、会長年度総括とさせて戴きます。本当に一年間有難う御座居ました。最後に私と一緒に一年間、会を運営する役割を担って戴いた松本剛典幹事、本当に御苦労様でした。有難う御座居ました。感謝申し上げます。



松本剛典幹事

残り2週間となりました。今年度は紺野会長のもと、クラブテーマ「和而不同」の精神で互いに意見を出し合い、協調して前に進んでいくことを念頭に、会長がやりたいことをお手伝いできるよう取り組んできました。紺野年度が始まる前から次年度の組織作り、プログラム作り、予算組みなど、半分手探りの状態であつという間に新年度に突入しましたが、こちらも残り2週、何とか最後までやることができました。これも紺野会長、諸先輩方の温かいアドバイスのお陰と思っております。ありがとうございます。

わたしは幹事として、この1年欠席することなく責務を果たせましたことに取りあえず安堵しています。また今年度は可能な限り各ロータリー行事、IDM、水曜会にも参加してきました。特に紺野会長との新会員勧誘の飲み会は数知れず、お互いに体を壊すのではないかと思うくらいでしたが、社会奉仕のた

め、あらゆる業種から優れた会員を増やしたという紺野会長の熱意に心を動かされたので、いずれも楽しいひとときでした。今年度を振り返りますと、本当にイベント目白押し的一年でした。先ほど会長からご説明がありましたので、こちらは割愛いたします。

今年度わたしの中で大きな出来事、良かったことは昨年末に紺野会長とわたしが面接をして新しい事務局に田名部由実さんというすばらしい人材を迎え入れたことです。その時はすでに何人かを面接していて、他の方に決めようとしていたところですが、最後の最後に田名部さんに巡り合うことができました。田名部さんは責任感があり、仕事もていねいで、とても気遣いのできる方ですので、事務局には最適だと思います。個人的にはこの選択はひじょうにナイスジョブだったと思います。

このようにいろいろあったわけですが、わたし自身、八戸ロータリークラブの幹事という大役を仰せつかり、常に新しい経験ばかりでとても勉強になった貴重な一年でした。このような機会を与えてくださった紺野会長、理事、役員の方々、八戸ロータリークラブの会員の皆様には改めて感謝申し上げます。この先のロータリーライフも幹事という経験を生かせるよう、自分なりに精進していきます

ので、これからも皆様にはご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。一年間本当にありがとうございました。

ゲスト紹介：副幹事

本日はゲストとして八戸市危機管理部次長兼危機管理課長の館合裕之様にお越しいただいています。館合様は八戸市役所にお勤めで、東日本大震災当時は災害対策本部に従事されていました。そして今年4月から危機管理部次長兼危機管理課長に就任されました。また防災士の資格もお持ちで、青森県防災士会八戸支部所属、県内の大学で防災士養成講座講師を務められているほか、八戸市内の30校以上の小中学校や社会教育施設などでボランティアとして講演をされています。

また平成27年3月に開催された第3回国連世界防災会議in仙台では東北復興パビリオンにおいて青森県代表としてプレゼンテーションを行っています。さらに平成29年度より総務省消防庁の災害伝承語り部の委嘱を受け、東日本大震災への対応の経験について北は北海道から南は熊本まで全国で講演をされています。

本日は「全国の自然災害に学ぶ」と題してご講演をいただきます。



「全国の自然災害に学ぶ」

八戸市危機管理部次長兼危機管理課長 館合裕之様



八戸市危機管理部次長兼危機管理課長に4月からなりました館合裕之と申します。まず4月から来たばかりなのに何の話をするのかと思われるかも知れませんが、実はわたしは東日本大震災当時の災害対策本部従事者の生き残りです。皆さん上の方がどんどん定年していくものですから、たぶんわたしが残っている中では最年長かと思います。その経験もあってさまざま防災の話をする機会がひじょうに増えています。様々な土地にいくものですから、そこ

でさまざま取材をして、きょう、皆さんにお話しできるかと思います。

お手元にレジメをお配りしましたが、これはお土産です。ご自宅や職場に帰ったときにきょうの話を思い出すときにお使いいただければと思います。写真がたくさん載っていますが、特に断りのないもの以外はぜんぶ自分で撮った写真を載せています。

ロータリークラブさんとは協定を結ばせていただきありがとうございます。能登半島地震をみてもお分かりの通り、まず大事なのは生き残ることです。生き残ることが一番大事

ですが、生き残った瞬間から自治体は復旧復興が始まりますが、個人の方々は生活の再建が始まります。その生活再建は何から始まるかという、自治体へのさまざまな書類申請、あるいは地震保険などの申請、さまざまな困りごとの相談が始まります。もう不安で不安でしようがないと思います。というのは、やったことがないわけですから、ひじょうに不安。自治の地の職員も頑張っていると思います、八戸市も頑張りますが、能登半島の職員はみな経験がないわけですから、本当に大変な思いをされていると思います。

そこでロータリーさんの出番。さまざまな職種、資格を持っている方がいらっしゃると思います。災害時はぜひ市役所のほうで、窓口を設けていただいて、ワンストップで来た方が、それは法律、申請、保険だとさまざまな交通整理をしていただいて、専門家につないでいただくことができるのもロータリーだけかと思っていますので、よろしくお願ひいたします。

きょうわたしは講師を引き受けたのは、ロータリークラブの皆さんの防災意識の向上に役立つ話をして欲しいとのことでした。皆さん東日本大震災の生き残りですので、もちろん防災意識は高いと思いますが、この13年の間にどんどん風化が進んでいます。びっくりします。小学校に行きますが、小学生はその当時生まれている子は誰もいません。みんな東日本大震災以降に生まれた子たちです。最近では宮城県の中で一番津波のことをリアルに体験できる施設があったのですが、ホームページで調べて夏休みに娘と行くかと思っていたらリニューアルしていました。津波のテーマは一切なくなって、アウトドアの施設になるそうです。びっくりしました。やっているのは自治体です。こんなに風化が進んでいるとびっくりしました。

ちなみに2番目にリアルに感じるができるのはどこかという、八戸のみなっちです。あの映像はわたしは日本では2番目だと思いましたが、一番目がなくなったの

で、あそこが一番かもしれません。あの画面を作る時にわたしも相談を受けました。防災士として相談を受けましたが、もっとリアルだったんです。もっとリアルだったので、わたしのよう震災を経験している人間は具合が悪くなります。これはやり過ぎ、もうちょっと抑えて抑えてというので今の状態になっています。それでも今は日本で一番津波の雰囲気を感じられる施設ではないかと思っています。

きょうは八戸での起こりうる全国の自然災害について話をしたいと思います。あちこち自然災害の後にわたしが行って取材した話を基にしますが、実はこの話は90分コースです。きょうは25分ですので、ギュッと凝縮してお話します。

館合裕之と申します。八戸生まれ、八戸育ちです。昭和40年生まれの58才です。3才のときに十勝沖地震を経験しています。やっていることは小中学校で防災教室を30校以上回っています。いろんな会議でお話をさせていただいていますが、八戸教育委員会で作った防災ノートの企画段階から市職員ではなく防災士として入られていただいて、作成アドバイザー。今の高校2年生以降の子は3冊全部勉強しているので、防災意識がまったく違います。知識も違います。その子たちは高校3年生なので、まもなく社会人としてどんどん皆さんの会社にも入ってくるかと思っています。ぜひ活用していただければと思います。

あちこち呼ばれました。北は北海道恵庭市、熊本県荒尾市まで。呼ばれるのですが、呼ばれたところはそれぞれが災害の後だったりします。すると予定より少し長めにいて、自腹でレンタカーを借りたりしながら調査をして写真を撮る。そしてきょう話をする、ことになっています。

能登半島地震はびっくりしました。1月1日です。1月1日は皆さん実はちょっと耐性があります。心構えがあります。年末年始は何かあるかもしれない。これは八戸に住んでいる方の習性です。12月28日は地震が来るかもしれない。1月1日は水道が止まるかもし

れない。皆さんさまざま経験していますので、八戸の人たちは本当に危機意識が高いし、耐性ができている。

たぶん能登半島の方はびっくりしたと思います。わたしは始め、16:06にメールがきます。震度5強。たいへんだな正月からと思って、その4分後、震度7とメールがきました。そのときわたしはびっくりしました。ホッとするメールにエラーが出たと思ったんです。わたしはホッとするメール開発の一人でもありますので、エラーが出た。震度5強のデータが震度7のデータと結びついて間違っただけだと思ってぞっとしました。ぞっとしましたが、実はエラーではなく本当だったんです。八戸も少し揺れました。皆さんの中でも揺れを感じた方もいらっしゃるかと思います。大津波警報も出ました。初めての天津波警報で日本海側は大パニックです。

しかもなかなか救援物資が配られない。おかしいな。まず1つ土砂災害で陸路が遮断。海路も遮断、空路も遮断でした。元々能登半島は昔から半島です。半島に道路を作ったのも人間ですが、今更地震で道路が遮断したから孤立しました、それはいいのではないかと考えていました。当然想定されるべきことではないかと思っています。しかも半島、ここは随分まっすぐです。青森県人としてはこういう半島はあまり馴染みがない。だいたい半島はえぐられてとんがったり、それがまっすぐというのは実は断層で、ガンガンと上がってできた半島なんです。

断層でできた半島は房総半島もそうですが、能登半島も元々は地震がくる。盛り上がるということは当然港が使えなくなるということもわかっていたはずですが、対策がされていなかった。また雪で飛行機が使えない。これだって、今雪国になったわけじゃないのに、冬はあまり使えないことも想定できたのではないかと残念に思いながら見ていました。

びっくりしました。ビルが横倒し。大火災、焼け野原。船が打ち上がる、土砂災害。ただし、これはすべて見たことがある光景です。皆さんも見たことがあるのではないかと思

います。歴史は繰り返すということを含めながら今日話を聞いていただければと思います。

まず日本海側には津波は来ないと思っていたらしいのですが、いやいや、山形県。令和元年6月18日に大騒ぎをしたことがありました。結果的に11cmしか来ませんでした。実際に行って見ました。歴史的に山形に本当に津波が来ていないのか。堅苔沢公民館があり、海に川が流れている地形です。回れ右の真ん中あたりに石碑があります。これは天保大津波墓碑です。高さ3丈(約9m)の津波がきて、集落で7人が溺れ死にしましたという内容です。3丈というのにも実にアバウトな数字で、実際に高さを測ると12.7mです。おそらく12mの津波が来たと思います。ああいう石碑があるとわたしは必ずその上にカメラを乗せて海の方に向けます。何がわかるかということ、どこまで津波が来たかがだいたいわかります。その石碑の高さです。するとほとんどの集落が沈んだということがわかります。実は山形県にもきている。

さらに皆さん記憶にあると思いますが、日本海中部地震。わたしは高校3年生18才でした。高校の昼休み近かった記憶がありますが11:59。八戸も揺れました。男鹿半島に行くとさまざまな石碑が残っています。昭和14年の地震の後、中部地震の碑。男鹿水族館に行くと、水族館の駐車場に亡くなったスイス人の女性を悼む像があります。また秋田県の内陸の合川南小学校の児童13人が亡くなりました。学校の先生もみな内陸出身で地震=津波と結びつかなかったそうです。海で遊んでいて、地震だ、危ないからバスまで戻ろうと戻った。揺れが収まったから大丈夫だからご飯を食べようと、また海の方に行ってしまう。それで流されて、さまざま近所の漁師さんが一生懸命助けたのですが、どうしても13人だけは助けられなかった。その碑が残っています。日本海側でも当然津波はきます。

きょうは関東大震災から胆振東部地震まで6つの話をします。関東大震災は去年2023年がちょうど100年でした。今年八戸大火

100年の年です。何となく関東大震災は東京の地震かと思いますが、実は震源は東京ではありません。10万人以上亡くなって9割が焼死。グラッときたら火の始末と当時から言われていました。今はグラッときたら火の始末ではありません。9割が焼死なのでできた標語です。

実は神奈川県から千葉にかけての地震です。この部分で大きな揺れを観測しています。東京は火災が強かったのでそういうイメージですが、実は神奈川と千葉の地震です。わたしは小田原の根府川という駅です。レトロな駅舎が残っていますが、構内に慰霊碑もありました。何が起こったかという、わたしはホームに立って山側を見ましたが、わたしの背中は海です。山から土砂が崩れてきて、列車が入っていましたが列車ごと、ホームごと全部流されてしまいます、根こそぎです。場所はかつて今も同じ場所で、まったく同じところ。9両編成のうち7両が水没、2両だけが残っていたという大惨事。150名中、死者が112名、負傷者13名。

さらにその当時の災害の凄さがわかる場所に行きました。釈迦堂というお堂があります。道路からグッと下がって、釈迦堂入り口でさらに下がって行くと川に橋が架かっています。橋の真ん中から上流を見ると水の流れが見えます。この水が大量の土砂を運んできて集落をぜんぶ飲みこみます。集落を全部飲みこんで、そのまま海まで流れます。実はここに大きな石がゴロゴロしています。河口付近なのに大きな石がゴロゴロしているのはおかしい。石は上流から流れてくるうちに小さくなるはず。まだ残っているというのはものすごい力で一気に運ばれてきた100年前の石だと思います。これはひじょうに土石流の強さを物語るものです。

釈迦堂は1階部分にはなにもありません。歩いて行くと階段で降ります。3mくらい降りて行くとお堂があります。お釈迦様は指の1本1本まできれいに残っていますが、このお釈迦様は3m以上の土砂に埋もれて見えなくなってしまった。それまでは仰いで拝むよ

うなお釈迦様だったのですが、3m以上潜ってしまった。先ほどの川の改修工事をするときに出てきた。さらに指の1本も欠けていないということでありがたい、今のように祀られています。関東大震災の被害です。

反対側の房総半島の館山市と南房総市にも行きました。房総半島は関東大震災は延命寺断層が動いて大きな被害が起きました。実際に延命寺というお寺があります。このすぐそばに断層があります。断層の高さが2mくらい違います。断層が1.2kmくらいありますが、それがそのまま道路になって、農地は農地のまま使われているという貴重な断層の跡です。

さらに大正ベンチと呼ばれる見物海岸に岩がありますが、今の海岸線、昔の海岸線、さらに昔の海岸線ということで、元禄の関東地震で隆起した場所、関東大震災で隆起した場所、今の海岸線と房総半島自体が隆起、隆起でできた半島ということがわかります。

さらに船越鉾切神社に行くと、何100年もかけてだんだんだんだん上がっていった跡が分かります。何がわかるかという、大きな段差がありますが、これが何100年もかけて上がっていった証拠になります。さらに上がっていくと本殿に向かう間でも、4か所くらい段差があります。これは何回も何回も隆起してできた地形だとわかります。

阪神淡路大震災です。わたしが役所に入った1年目でした。三陸はるか沖地震の3週間後です。淡路島北部明石海峡が震源です。6,000人以上が亡くなり、8割以上が圧死、窒息死という災害でした。能登半島地震の写真と見比べていただいてもわかりますが、屋上が見えるくらいビルが倒れている、寄りかかっている、民家も倒れている。道を塞ぐので火事が起きても消防車で消せない。消防車が近くに行けない、そして焼け野原。能登半島地震とそっくりです。北淡震災記念公園に天然記念物として野島断層が保存されています。オレンジとオレンジ、青と青がくっ付いていました。左右にずれて上下にもずれている。さらに立体的にもずれて

います。青と赤は逆断層で盛り上がった。1か所だけでなくずっと120m保存されていますので、近くに行ったら見ていただければと思います。

平成28年熊本地震。震度7が2回という衝撃的な地震でした。1回目はこのくらい、2回目は東京の方まで揺れている。同じ震度7でも大きな地震でした。6強が2回、6弱が3回、5強、5弱が11回。何とか効率的に現地が見たかったので、観光タクシーの運転手さんをお願いして、なおかつ観光ガイドさんをお願いしました。わたしが行った時は観光客はだれもいませんでした。怖くていけない。阿蘇大橋の跡も見てきました。橋があったのですが落ちてしまった。新阿蘇大橋がそこから右のほうに作られています。もともと繋がっていた水路が断層が1.2mずれたことによって、水路がずれてしまった。最後は40cmくらいずれていました。益城町も天然記念物として保存されます。自宅前を断層が走ったお宅があります。近くに小屋があり、40cmくらいの断層が見えましたが、これも保存されています。

台風第10号。観測史上初、東北地方太平洋側から上陸しました。われわれが八戸で感じる台風というのは弱ってきた台風で、本当に元気な台風はなかなか八戸に来ることはないですが、このとき来てしまいました。人も山も木も未経験の風雨でした。一旦近づいて、ブーメランみたいに回って東北地方に来ました。ひじょうに強い勢力でした。八戸のすぐ南側、久慈から岩泉町は相当降りました。現地に行くと、橋が壊れているから見に行こうと思っても行けない。道路が壊れている。

またあちこちで土石流が発生して、木がぜんぶ川に流れてしまう。普段は小さな流れがこういう土砂を持ってくる。ふだんの川がえぐって、えぐって家がどんどん壊されていっていました。工事をしていると思ってみると土石流。ふだんは小さな側溝です。これが大量の土砂を持ってくる土石流のサインです。ふだんは細い流れなんでしょうけれども、

大量の土砂を川までもってくる。ふだん水が流れているかどうかかわからないような斜面も大量の土砂をもってくることになります。そして流れた木が川にたまり、ビーバーの巣みたいになって水位が上昇する。1階の天井まで水がきます。9人の方が亡くなりました。

西日本豪雨は平成最悪の水害と呼ばれています。わたしは江田島市役所に行って講師をして写真をいただきました。横断歩道に大量の土砂。江田島は島なので道路がライフラインです。一生懸命道路を切り開いて、片側だけでも通すということで通したそうです。自宅で一人が生き埋めになってしまいました。救助し、犠牲者0でした。上流から大量の土砂が流れてきました。島の普通の風景を見て危ないと思うかも知れませんが、素人目でも危ないです。回れ右すると崩れ、雨だけでこのような被害が起きます。

胆振東部地震。ブラックアウト。八戸もけっこう揺れました。苫小牧のすぐ近くの厚真町に行きましたが、恵庭市の講演会に行く途中、レンタカーで走りましたが、あれおかしい。何かおかしい。道路がおかしい。木が倒れている。電柱まで倒れている。家も崩れている。この小屋は真逆さまで。わたしはどこを走っているのかと思ったら、山の真ん中を走っていました。山中が崩れていました。どこに行っても崩れていました。北海道はもともと火山が多く、火山灰の地形です。そこで地盤が弱い。そこに大量の降水量と地震。わたしは恵庭市に行ったときにどうでした？と聞いたら、実は前の日に台風だった。12時で解散になって家に帰ったら3時に地震でした。大量の雨と経験したことのない地震であのような被害が起ってしまった。

山村武彦さんという防災の専門家が「防災格言」という本を出していますが、その中で「想定外とは想定を怠った者の言い訳である。」「安全安心は準備に比例する。」「すべての防災は事前対策にある。」わたしもいろいろ話をして、質疑応答の中でよくいます。不安で不安でたまりませんという方のお話を

聞くことがありますが、何か準備をされていますか？と聞くとしていません。けっこう多いです。準備をすればするほど安全安心に結びつきますので、ぜひリュックから準備しましょうかという話をします。

またプロアクティブの原則というのがあります。災害あるいは危機管理の原則ですが、疑わしいときは行動せよ。そうならなければいいなと思うのではなく、まず行動する。最悪の事態を想定して行動せよ。最悪の事態が起きないといいな



と何もしないのではなく、一応行動する。そして空振りは許されるが、見逃しは許されない。これも資料にありますのでゆっくりご覧ください。

質疑応答：

Q1：北海道の震災のときにわたしは旭川のホテルに泊まっていた。ちょうど6階に泊まっていたエレベーターが動かなくなって階段を降りました。どうして帰ろうかと思ったときに旭川空港から飛行機が羽田には出ていますということで、旭川空港までタクシーで行きました。ものすごい人で混雑していて、切符を買うのにカードが使えない。現金だけ。わたしは懐に20万円の金を持っていたので、仲間と一緒に羽田まで飛行機で行って、それがいい経験になりました。それから常に現金は50万円くらい持って歩くようにしています。

お礼贈呈：

講評：紺野 広会長

1月1日の能登半島地震で当院は9人編成の救護班4班、他、医療コーディネーターチーム、心のケア班、そして被災地内の3病

院に支援看護師を、等々多数の医療資源を派遣致しましたが、2週間以上経っても救護所の環境整備が未だしっかりとしたものになって居無い状況が、帰院した者達から報告されて参りました。此れだけ大きな様々な災害が国内で頻発して居るにも関わらず、其々の災害からちゃんと学べて居無いと云う事に忸怩たる思いが有ります。災害をきちっと乗り越えて行く為の準備が出来て居無い。初期対応が、そう云う状況だったという事から、我々八戸RCは、必要な時に必要と思われる事をクラブとして成せる様、動き始めました。

館合様の御話しの中にも、被災経験を風化させてはいけ無いと云うくんだり再三再四出て参りましたが、災害を、被害を最小なものにする為の防災。そして、運悪く被害を受けた場合には復興を迅速に果たす為に活動する。其れが我々大人の役割だろうと考えます。準備を怠ったせいで災害関連死は、人災と言って良いのだと思います。我々も鋭意準備を進めて、災害時の被害を最小にする防災、復興の手助けがクラブとして出来る様に遣って行きたいと思えます。

今日は、私が勤務して居ります八戸赤十字病院に、午前中に、穂積建設がヘリポートの敷設に関して打ち合わせに来て呉れました。午後には創水舎の栗谷川敏彦さんが、内水氾濫対策の為の調査に来て下さいます。夕方には、八戸赤十字病院の防火・防災・災害対策委員会が開催され、其の中で災害時安否確認のソフトの、2社のヒアリングをする事に成って居ります。病院の体制整備は順調に進んで来て居りますが、当RCも遅れを取ら無い様に、館合様から御時間を頂戴しながら、しっかり相談し、御指導を賜りながら遣って参りたいと思えます。

本日は色々な貴重な御写真を御供覧戴き大変勉強に成りました。又、心に迫る御話しを有難う御座居ました。館合様の益々の御活躍を八戸市の為にも御祈念申し上げ、閉会致したいと存じます。

点鐘：

出席報告						出席委員会																	
第3317回例会（6月19日）			第3315回例会（6月5日）																				
出席率		57.4%		出席率		50.8%		修正出席率		60%													
総会員数		69名		出席数		39名		総会員数		66名		メイクアップした人数		6名									
出席義務会員		68名		出席免除会員		1名		欠席数		29名		出席義務会員		65名		出席免除会員		1名		欠席数		26名	